

Windows 2000をご使用の方へ

C79169011

本書は、Microsoft® Windows® 2000 Professional（以降Windows2000）をお使いになる場合の使用方法や注意事項などを記載しています。本機に添付の『ユーザーズマニュアル』はWindows95、Windows98またはWindowsNT4.0を使用することを前提に記述されています。このためWindows2000で本機をお使いになる場合、使用方法などが一部異なります。本書と『ユーザーズマニュアル』をよくお読みの上、Windows2000を使用してください。本書に記載がない事項に関しては、『ユーザーズマニュアル』に記載されているWindows98に関する記載をWindows2000と読み替えてください。

本書をご覧になる前に

本書は下記3機種用に作成されています。お客様のコンピュータに該当しない記述はお読みいただく必要はありません。

Type-VJ

Type-SW

Type-HX

目次

使い始める前の準備	3
添付ソフトウェアの概要	3
使い始める前の注意事項	4
Windowsのセットアップ	5
Windows2000の終了と電源の切り方	10
リセット	10
Windows2000での使い方	11
USBコネクタ	11
パワーマネージメント機能	11
フロッピーディスクドライブ	11
サウンド機能 (Type-VJのみ)	11
赤外線通信 (Type-SWのみ)	12
解像度の再設定	12
HDDの領域設定について	13
Windows2000の再インストール	14
インストールの準備	14
インストールの順番	15
インストール時の注意	16
基本MS-DOS領域のフォーマット	17
Windows2000のインストール	18
DMA転送の設定	20
そのほかの注意事項	
HDD領域の変更を行う場合の注意事項	21
BIOSのアップデートについて	21
Direct3D機能を使用する場合の注意事項	21
システム修復ディスク	22

使い始める前の準備

添付ソフトウェアの概要

本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時の仕様によっては、このほかにも添付されているソフトウェアがあります。ディスプレイドライバやマウスドライバなどは、Windows2000標準ドライバを使用します。Windows98/95/NT4.0用のドライバが登録されたCDやFDが添付されている場合もあります。間違えて使用しないように注意してください。

記号の見方

<インストール状態>

-  : 内蔵HDDにインストールされています。
-  : インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。

<添付状態>

-   : ディスクが添付されています。
-  : バックアップディスクの作成が必要です。
 p.8「バックアップディスクの作成」

Windows2000インストールモデル

Windows2000

 『Windows2000クイックスタートガイド』



Windows2000起動用プログラム

(リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク)

- ・ Windows2000 の再インストール時に使用します。
- ・ FORMATコマンドやFDISKコマンドが登録されています。



VirusScan for Windows

最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。

 『VirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』



Adobe Acrobat Reader

様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。



マニュアル(PDFファイル)

「ユーザーズマニュアル」が、コンピュータ画面上でいつでも見られるようにPDF化されています。

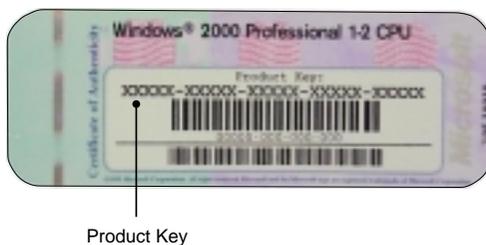


使い始める前の注意事項

COAラベル

購入時のコンピュータ本体には、『Windows2000 Certificate of Authenticityラベル (以降COAラベル)』が貼付されています。『COAラベル』には「Product Key」が記載されています。「Product Key」は、Windowsのセットアップ時やWindowsの再インストール時に使用します。コンピュータから『COAラベル』をはがさないようにしてください。

COAラベル



デバイスドライバ インストール時の 注意

デバイスドライバのインストール時や周辺機器の接続時などに「Windows2000 CD-ROM」を要求されることがありますが、「Windows2000リカバリCD-ROM」をセットせずに、ファイル名に「C:¥I386 (¥I386の「I」はアルファベット)と指定してください。(「I386」フォルダがCドライブにある場合)

Windows2000のセットアップ

コンピュータが届いてから初めて電源を入れたときには、Windowsが起動後、自動的に「Windows2000セットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。画面に表示されるメッセージに従って対話式で簡単に実行できます。

Windows2000インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows2000 セットアップ」が実行されます。セットアップ作業の流れは次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。

Windows2000セットアップウィザードの開始



セットアップを続行するには、[次へ]をクリックします。

ライセンス契約



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。「同意しない」を選択するとWindowsのセットアップが中止されます。

ソフトウェアの個人用設定



ユーザー情報として名前と組織名を管理者の指示に従って入力します。

名前を入力後 [Tab] を押すと組織名の欄にポインタが移動します。

プロダクト キー

コンピュータ本体に貼付されているCOAラベルに記載されている「Product Key」を入力します。



コンピュータ名とAdministratorのパスワード

「コンピュータ名」、「Administratorのパスワード」を管理者の指示に従って入力します。

日付と時刻の設定

「日付と時刻」で現在の日付を設定し、「タイムゾーン」で地域を指定します。

Windows2000セットアップウィザードの完了

Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックするとコンピュータが自動的に再起動します。

2

Windows2000が再起動し、パスワードを入力すると、Windows2000のデスクトップが表示されます。これでWindows2000のセットアップは終了です。



3

Windows2000セットアップ終了後に、次の作業が必要です。

FAXモデムの設定(FAXモデムカード装着時のみ)

 FAXモデムに添付のマニュアル

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、VirusScan for Windowsはインストールされていません。

VirusScan for Windowsをインストールします。

 『VirusScan for Windowsご使用の前に』

バックアップディスクの作成

本機にインストールされているソフトウェアの一部のバックアップディスクを作成します。バックアップディスクを作成しないとソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成しておきましょう。

 p.8「バックアップディスクの作成」

セットアップブートディスクの作成

修復セットアップを行う場合などに使用する「セットアップブートディスク」を作成します。必ず作成しておきましょう。

 p.9「セットアップブートディスクの作成」

以降は、添付の『Windows2000クイックスタートガイド』や『Windowsのヘルプ』をご覧になりWindowsを使用してください。

購入時のHDD領域の設定について

コンピュータご購入時のHDDは、ファイルシステムFAT32を使用してWindows2000をインストールしてあります。HDD領域は、すべて基本MS-DOS領域(Cドライブ)に設定されています。

バックアップ ディスクの作成

本機の内蔵HDDには、購入時にWindows2000や各種ソフトウェアが登録されています。これらソフトウェアの一部をバックアップして、「バックアップディスク」を作成する必要があります。バックアップディスクは「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



制限

バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。FDを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
マニュアルディスク	2～3枚*

*マニュアルディスクの枚数は、コンピュータの機種によって異なります。

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもバックアップディスクの作成が必要な場合があります。「バックアップFD作成ユーティリティ」画面に表示されるすべてのディスクのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート] をクリックし、「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ] をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の指示に従ってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには必ずディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。



『ユーザーズマニュアル』-「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

セットアップ ブートディスク の作成

「セットアップブートディスク」は、修復セットアップを行う場合などに使用します。必ず作成しておきましょう。セットアップブートディスクの作成では、フォーマットしたFDが4枚必要です。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート] をクリックし、「プログラム」-「アクセサリ」-「コマンドプロンプト」 をクリックします。
- 2 コマンドプロンプト(C:¥>)と表示されたら、次のように入力して を押します。
CD ¥BOOTDISK (¥ はスペースを意味します。)
「C:¥>」以外のコマンドプロンプトが表示された場合は、次の方法でコマンドプロンプトを「C:¥>」とします。
「C:」と入力して を押し、「CD ¥」と入力して を押します。
- 3 コマンドプロンプト(C:¥BOOTDISK>)と表示されたら、次のように入力して を押します。
MAKEBT32
- 4 「コピー先のフロッピードライブを指定してください。」と表示されたら を押します。
- 5 画面の指示に従い、FDDに1枚目のFDをセットし、どれかキーを押します。ディスクの作成が始まります。
- 6 1枚目のディスクの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには必ずディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトして大切に保管してください。
 『ユーザーズマニュアル』-「ライトプロテクト(書き込み禁止)」

Windows2000の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows2000を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、「シャットダウン」をクリックします。
- 2 「Windowsのシャットダウン」画面で「シャットダウン」を選択し、[OK]をクリックします。
- 3 Windows2000が終了し、自動的に本機の電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺装置の電源をオフにします。

リセット

コンピュータの電源がオンになっている状態で、コンピュータを再起動する場合には「リセット」を行います。リセットは次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合。

プログラムがハングアップ(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合。

リセットすると、メモリ上のデータは、すべて消失します。プログラムがハングアップした場合以外は、リセットを行う前に必要なデータをHDDなどに登録してください。

Windows2000 のリセット方法

[スタート]-「シャットダウン」で「再起動」を選択し、[OK]をクリックします。(プログラムハングアップ時は、使用できません。)

キーボードの **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押し、「Windowsのセキュリティ」画面で「シャットダウン」を選択します。「Windowsのシャットダウン」画面で「再起動」を選択し、[OK]をクリックします。

Windows2000での使い方

Windows2000インストールモデルを使用する際に知っておいていただきたい事項や使い方は、次のとおりです。

USBコネクタ

Windows2000では、USBコネクタが使用できます。USB機器を使用するにはUSB機器専用のデバイスドライバが必要な場合があります。詳しくは、USB機器のマニュアルをご覧ください。

パワーマネージメント機能

Windows2000では、「パワーマネージメント機能」が使用できます。パワーマネージメント機能の設定は、「コントロールパネル」-「電源オプション」をダブルクリックし、「電源オプションのプロパティ」で行います。初期設定は、「モニタの電源を切る - 20分後」、「システムスタンバイ - なし」に設定されています。Windows2000での設定がBIOS Setupユーティリティの設定より優先されます。

休止状態

Windows2000の新しいパワーマネージメント機能です。

作業内容をHDD領域に保存して中断します。電源を切った状態と同様に電力を消費しません。「休止状態」から復帰すると、休止状態に入る前の状態にデスクトップが復元され、すぐに作業を続行できます。

 「Windowsのヘルプ」

フロッピーディスクドライブ

Windows2000では、1.2MBフォーマットのFDは使用できません。

サウンド機能 (Type-VJのみ)

「MIDIファイルの再生」は、標準のサウンドユーティリティで行います。

「YAMAHAソフトシンセサイザー/MIDIプレーヤー」は使用しません。

赤外線通信 (Type-SWのみ)

Windows2000では、「赤外線通信」が使用できます。「赤外線通信」の使用方法は、次のとおりです。

BIOSの設定

CMOS Setupユーティリティの「Integrated Peripherals」の設定を次のとおり設定します。(☞『ユーザーズマニュアル』- p.66「BIOSの設定」)

- ・ Onboard Serial Port2 : 「2F8/IRQ3 (初期値「Disabled」)
- ・ COM2 Mode Select : 「IrDA(SIR) (初期値「IrDA(SIR)」)

赤外線通信を使う

「BIOSの設定」後、次の手順で赤外線通信を始めます。

通信可能範囲に赤外線通信対応機器を設置します。

赤外線ポートを検出すると自動的にデスクトップに「ワイヤレスリンク」が表示されます。

「ワイヤレスリンク」の使用方法は、Windowsのオンラインヘルプをご覧ください。



制限

Windows2000はASKをサポートしていません。

解像度の再設定

Windows2000標準のビデオ機能で表示できない解像度を選択して再起動すると画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こる場合は、VGAモードを有効にしWindowsを起動した後、再設定をします。

Windows2000の「VGAモードを有効にする」起動方法は、次の手順で行います。

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置します。
- 2 電源を入れた直後に **F8** を押し続けます。
- 3 「Windows2000拡張オプションメニュー」が表示されたら、VGAモードを有効にする』を選択し、**←** を押します。
- 4 画面の指示に従って操作します。

HDDの領域設定について

Windows2000購入時のHDDは、次のように設定されています。

HDD	領域	ファイルシステム
HDDを1台装着の場合(1台目)	すべての領域	FAT32
HDDを2台装着の場合(2台目)	すべての領域	未設定

未設定領域は、このままでは使用できません。「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」-「ディスクの管理」を使用して領域の作成を行ってください。

 「Windowsのヘルプ」

「I386」フォルダ

Cドライブには、「I386」フォルダがあります。「I386」フォルダは、デバイスドライバのインストール時や、周辺機器の接続時に必要なフォルダです。絶対に削除しないでください。

Cドライブがデータでいっぱいになり容量不足になったときは、不要なファイルを削除して空き領域を確保するか、DドライブまたはDドライブ以降のドライブがある場合は、Cドライブの「I386」フォルダ(約450MB)を移動します。



制限

Cドライブの空き容量が、コンピュータに搭載されているメモリ容量よりも少ないと、パワーマネジメント機能の「休止状態」が設定できません。

 p.11「休止状態」

Windows2000の再インストール

Windows2000やユーティリティソフトのインストール方法を説明します。インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りません。

インストールの準備

再インストールが必要な場合

Windows2000の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindows2000が起動しなくなったとき。

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールしたいとき。

HDD領域の構成を変更したいとき。

 『ユーザーズマニュアル』-「HDD領域の変更」

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提としています。ご購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、工場出荷時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア

ソフトウェアのインストールには、次のFDとCD-ROMが必要です。

リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク

Windowsの起動や、HDDのフォーマットに使用します。

FORMATコマンドやFDISKコマンドが登録されています。

Windows2000 リカバリCD-ROM

Windows2000が登録されています。

ユーティリティCD

VirusScan for WindowsとAdobe Acrobat Readerが登録されているCD-ROMです。

使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

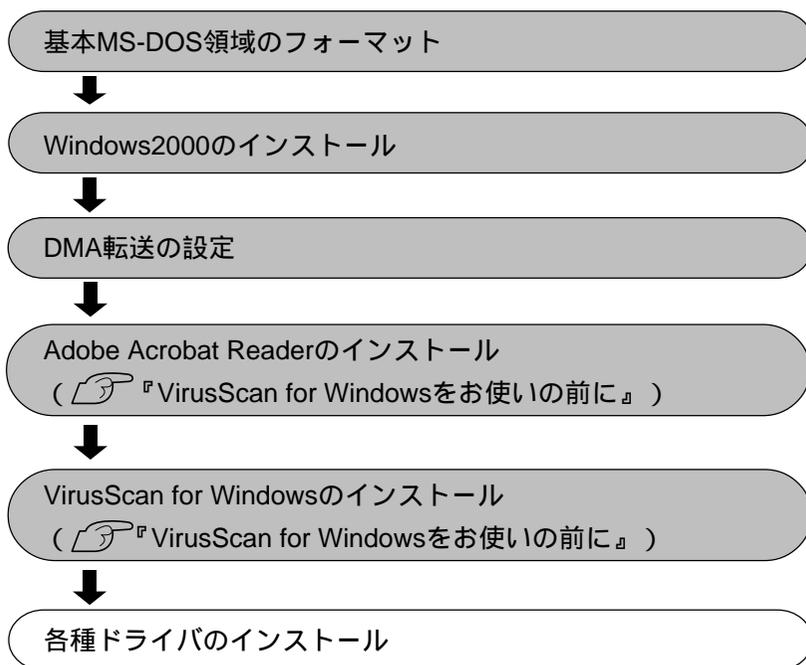
必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

お使いになるデバイスドライバやソフトウェアがWindows2000に対応していることを必ず確認してから使用してください。

 『Windows2000対象デバイス一覧』

インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。なお、ディスプレイドライバやマウスドライバなどは、Windows2000標準ドライバが自動的にインストールされます。コンピュータご購入時にWindows2000インストールモデル専用ドライバが添付されている場合は、ドライバのインストールが必要です。Windows98/95/NT4.0専用ドライバが登録されたCDやFDが添付されている場合は、間違えて使用しないよう注意してください。



インストール時の注意

インストールを始める前に、下記の点に注意してください。

購入時のHDD領域サイズ

Windows2000インストールモデルは、購入時にファイルシステムFAT32を使用してWindowsをインストールしてあります。HDD領域は、すべて基本MS-DOS領域(Cドライブ)に設定されています。

ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD

Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ:CD-ROMドライブ

入力文字

本書の記載ではキーボードから入力する文字は、すべて大文字で記載してありますが、入力する際は、大文字・小文字のどちらで入力してもかまいません。

Windows2000 CD-ROMを要求されたら

ドライバ類のインストール時に「Windows2000 CD-ROM」を要求されることがありますが、「Windows2000リカバリCD-ROM」をセットせずに、ファイル名に「C:¥1386 (¥1386の「I」はアルファベット)」と指定してください。(「I386」フォルダがCドライブにある場合)

メーカー情報

Windows2000を再インストールすると、「コントロールパネル」-「システムのプロパティ」に表示されていたメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。

基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows2000をインストールする領域(MS-DOS領域)をフォーマットします。



制限

- 領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。
- フォーマットする前に、必ずWindows2000のプロダクトキーを確認してください。Windows2000をインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは、コンピュータ本体に貼付されている『COAラベル』に記載されています。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。FORMATコマンドは「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」に登録されています。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、コンピュータを起動させます。
「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用するときは、ライトプロテクトを外します。
 『ユーザーズマニュアル』-「ライトプロテクト(書き込み禁止)」
- 2 「コンピュータを再起動します...」と表示されたら、どれかキーを押します。コンピュータを購入後、「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」を初めて使用する時のみ表示されます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います...」と表示されたら、 を押します。
- 4 コマンドプロンプト(A:¥ >)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FORMAT C: (はスペースを意味します。)
- 5 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥ >)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows2000のインストール

Windows2000のインストールは、次の手順で行います。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットします。
- 2 コンピュータの電源を入れるか再起動させます。
- 3 「Windows2000の再インストールを行います。…」と表示されたら、
「Windows2000リカバリCD-ROM」をCD-ROMドライブにセットして、どれかキーを押します。
手順4の「Windows2000 Professionalセットアップ」画面が表示されるまで数分かかります。
- 4 「Windows2000 Professionalセットアップ」画面が表示され、ファイルのコピーが始まります。「…コンピュータを再起動します。コンピュータの再起動後、Windows2000セットアップを続行します。」と表示されたら、FDを抜き を押します。
- 5 「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、 を押して続行します。
- 6 「Windows2000ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
「同意しない」を選択するとWindows2000のインストールは終了します。
- 7 「以下のいずれかのキーを押して、キーボードの種類を特定してください。」と表示されたら、 を押します。
- 8 「…一覧からパーティションを選択してください。」と表示されます。通常は「C:」を選択して を押します。
- 9 「…にWindows2000をインストールします。」と表示されたら、ファイルシステムを選択し、 を押します。
購入時のHDDは、ファイルシステムFAT32を使用しています。

- 10 ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピーが終了すると、自動的にWindowsが再起動します。
- 11 「Windows2000セットアップ」画面が表示されます。画面の指示に従ってセットアップを行います。
- 地域
- 通常は「次へ」をクリックします。
- ソフトウェアの個人用設定
- ここでは「名前」を必ず入力してください。
- プロダクトキー
- 『COAラベル』に記載されている「ProductKey」を入力します。
- コンピュータ名とAdministratorのパスワード
- コンピュータ名とAdministratorのパスワードを入力します。
- 日付と時刻の設定
- コンピュータ設置場所の日付と時刻の設定を行います。
- ネットワークの設定
- 通常は「標準設定」にチェックマークを付けて「次へ」をクリックします。
- ワークグループまたはドメイン名
- 管理者の指示に従って「ワークグループまたはドメイン名」を入力します。
- 12 「Windows2000セットアップウィザードの完了」と表示されたら、CD-ROMを取り出し「完了」をクリックし、Windowsを再起動します。
- 13 「ネットワーク識別ウィザードの開始」と表示されたら、「次へ」をクリックします。
- 14 「このコンピュータのユーザー」画面で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある」にチェックを付けて、「次へ」をクリックします。
- 15 「ネットワーク識別ウィザードの終了」と表示されたら「完了」をクリックします。これでWindows2000のインストールは終了です。

DMA転送の設定

IDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。CD-ROMドライブのほかにDVD-ROMドライブなどのATAPI IDE機器が接続されている場合も、同様の手順で設定を行ってください。ただし、IDE HDDは、コンピュータが自動的に設定を行うため「DMA転送の設定」を行う必要はありません。

- 1 [スタート]-「設定」のサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 「コントロールパネル」-「システム」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「ハードウェア」タブをクリックします。
- 4 「デバイスマネージャ」の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- 5 「IDE ATA/ATAPIコントローラ」をダブルクリックします。
- 6 「セカンダリIDEチャンネル」をダブルクリックします。
- 7 「詳細設定」タブをクリックします。
- 8 「デバイス0」、「デバイス1」の「標準モード」から「DMA」を選択します。ただし、「現在の転送モード」が「無効」と表示されている場合は、デバイスの接続がされていないので設定を行う必要はありません。
- 9 [OK] をクリックします。
- 10 「今すぐコンピュータを再起動しますか?」とメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。Windows2000が再起動すると、DMA転送の設定は終了です。

その他の注意事項

HDD領域の変更を行う場合の注意事項

ファイルシステムFAT32またはFAT16でHDD領域の変更を行う場合は、『ユーザーズマニュアル』-「HDD領域の変更」を参照してください。「HDD領域の変更」手順中の「Windows2000の起動方法」は、次のとおりです。

次の方法で起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

- 1 「リカバリCD-ROMセットアップ起動ディスク」をFDDにセットして、Windows2000を起動させます。
- 2 「Windows2000の再インストールを行います...」と表示されたら、 を押します。
- 3 コマンドプロンプト(A:¥>)と表示されます。

BIOSのアップデートについて



制限

EPSON製以外のBIOSを使用すると、Windows2000を再インストールすることができません。

Direct3D機能を使用する場合の注意事項



制限

Windows2000標準のビデオドライバを使用する機種では、Direct3D機能を使用するアプリケーションは正常に動作しない場合があります。

■ システム修復ディスク

「システム修復ディスク」は、本機では使用できません。「システム修復ディスク」を使用するには「Microsoft Windows2000 Professional CD-ROM」が必要になります。

MEMO

